



てっこ



むすぶ先生

手汗のお悩み
解決情報サイト

みんなの手の汗サイト

手の汗 久光



<https://www.hisamitsu.co.jp/tenoase/>

※携帯電話・スマートフォンは、院内等のルールに従ってご使用ください。

医療機関名

この小冊子の表紙と裏表紙は、
水に強い紙を使用しています。



AHLS002R04d

作成:久光製薬株式会社
2025年2月作成

Hisamitsu®

アポハイド®ローション20%を お使いになる方へ

監修

池袋西口ふくろう皮膚科クリニック 院長
藤本 智子 先生



てっこ

むすぶ先生



手汗に、手当てを。

げん ばつ せい しゅ しょう た かん しょう 原発性手掌多汗症について

原発性手掌多汗症とは、特に病気などの明らかな原因がないにもかかわらず、手のひら(手掌)に日常生活に支障をきたすほど、たくさんの汗が出てしまう状態です。

<原発性手掌多汗症の診断基準>¹⁾

手の多汗症状が6カ月以上続き、以下の6症状のうち2項目以上当てはまる場合、「原発性手掌多汗症」と診断されます。

1. 最初に手の多汗症状が出たのが25歳以下
2. 左右の手のひらに汗をかく
3. 睡眠中は発汗が止まっている
4. 1週間に1回以上、手の多汗症状がみられる
5. 家族に同じ症状の方がいる
6. 手汗のために日常生活に支障をきたしている



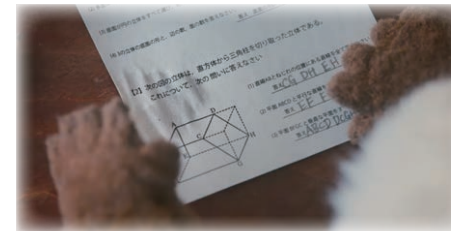
1) 藤本 智子ほか: 日皮会誌 2023; 133(2): 157-88. より改変
©日本皮膚科学会

原発性手掌多汗症の患者数

原発性手掌多汗症の患者さんは国内で約493.1万人いると推計され²⁾、決して珍しくはありません。

多くは10代頃(平均発症年齢13.8歳)²⁾に症状が現れはじめ、学校生活にも支障をきたしていることがあります。

また、治療法があることの認知が広がっていないために、成人になっても手汗のために困っている方が大勢いると考えられます。



2) Fujimoto T, et al.: J Dermatol 2013; 40(11): 886-90.

原発性手掌多汗症の治療方法

発汗を抑える主な治療方法として、塗り薬、注射薬、抗コリン経口薬、イオントフォレーシス、手術などがあります。治療について事前説明を受け、医師と十分に相談しながら治療を進めます。

<主な治療方法>

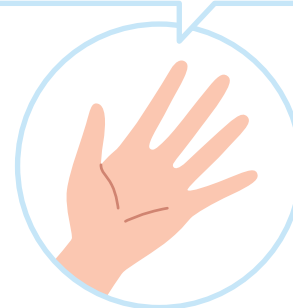
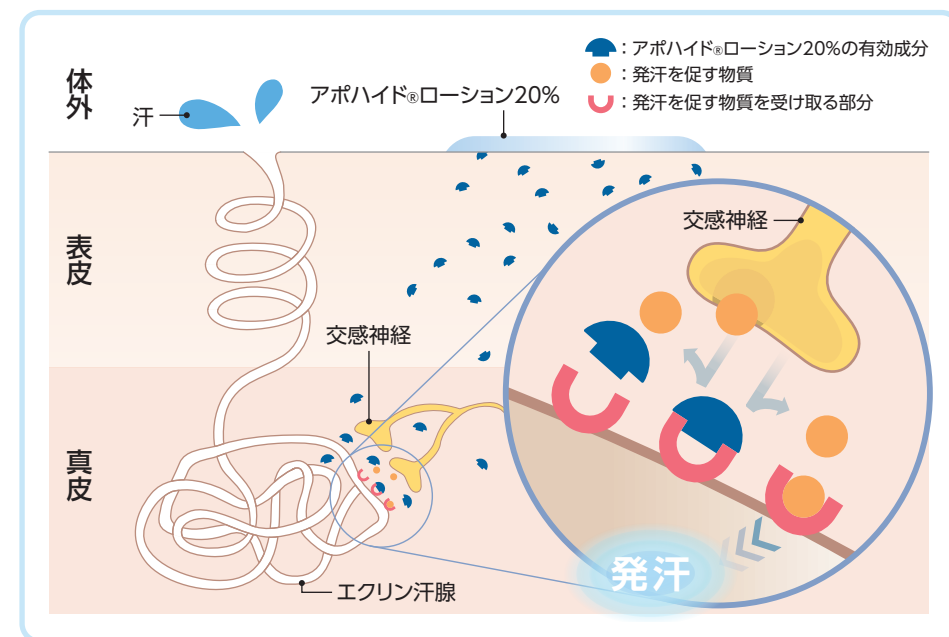
治療の種類		特徴
塗り薬	アポハイド®ローション20%	手のひらに塗るお薬です。 発汗を促す物質をブロックします。
	塩化アルミニウム外用薬※	手のひらに塗るお薬です。 汗の出口を塞ぎます。
注射薬	ボツリヌス毒素局注療法※	手のひらに注射するお薬です。 複数カ所、注射をします。 発汗を促す物質をブロックします。
抗コリン経口薬		飲むお薬です。 発汗を促す物質をブロックします。
イオントフォレーシス		手のひらを水中、または濡れた布の上に置いて行います。 水中で発生させた水素イオンが汗の出口を小さくします。
手術		発汗に関わっている神経の節を切除または焼灼します。

※保険適用外

アポハイド®ローション20%について

アポハイド®ローション20%は、日本で初めて「原発性手掌多汗症」に対して保険適用が認められた外用薬です。

アポハイド®ローション20%は手のひらの皮膚から吸収され、皮膚の下にある交感神経から出される発汗を促す物質をブロックすることで、過剰な発汗を抑えることが期待されます。



アポハイド[®]ローション20%の使い方

アポハイド[®]ローション20%は1日1回就寝前に、
手のひらに塗るお薬です。
お薬を塗った後は、起床後まで手を洗わない
ようにしてください。

① お薬を塗る前に、手のひらの水分などをよく拭いてください。



② 手のひらにお薬を適量出してください。



※新しいお薬を最初に使うときは薬液が出てくるまでティッシュペーパーなどで3～4回ポンプを空押ししてください。



③ 左右の手のひらに均等に塗り広げます。



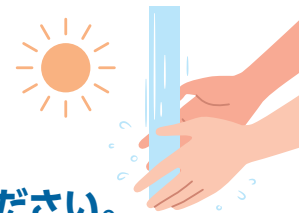
※手のひら以外の部位には使用しないでください。
※可燃性の成分を含むため、火気を避けて使用してください。

④ お薬を塗ったまま、就寝します。

※お薬が乾くまで寝具などに触れないようにしてください。



9ページの注意事項を確認しましょう。



⑤ 起床後は、手を流水でよく洗ってください。

※手を洗ったあと、再度お薬を塗る必要はありません。

アポハイド[®]ローション20%は毎日、塗り続けることで安定した効果が得られます。

※医師または薬剤師の指示に従って使用してください。

アポハイド[®]ローション20%の使い方を動画でもご覧いただけます。

<https://www.harikata.jp/a57.html>



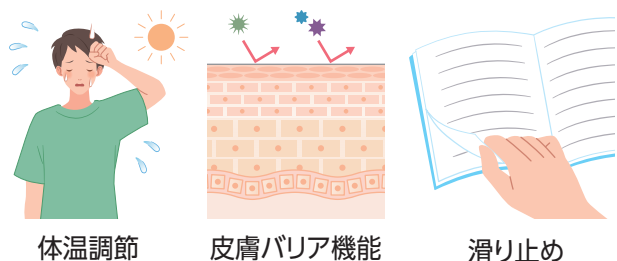
何か異常が認められた場合には、お薬の使用を中止し、
すぐに医師または薬剤師に相談してください。



まずは1カ月間、 毎日治療を続けてみましょう

※医師または薬剤師の指示に従って使用してください。

● 汗の役割

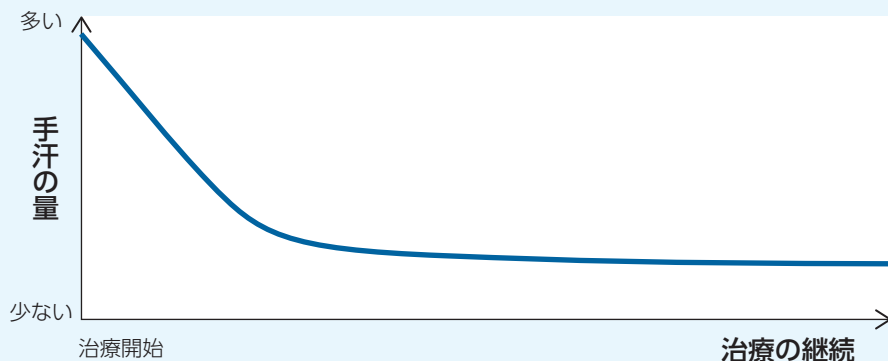


汗は、体温調節や皮膚バリア機能、滑り止めなどの重要な役割を担っています。

● 治療目標

汗の量をゼロにするのではなく、適度な汗の量にすることで、日常のお困りごとを減らすことを目標に治療をしていきましょう。

<治療継続のイメージ>



※治療効果には個人差があります。

アポハイド[®]ローション20%の使用にあたって ご注意いただきたいこと

- お薬が意図せず洗い流されないように、手が濡れる行為は避けてください。
- お薬を塗った手を、気密性の高いゴムやビニール、シリコンの手袋などで覆わないようにしてください。
※手袋を使用するときは、防水性が低く通気性の高い手袋(布製の手袋など)にしてください。
- 起床後に手を洗うまでの間は、塗った箇所以外(目など)に触れないようにしてください。万が一目に入った場合は、すぐに水で洗い流してください。

<お薬を塗ったあとの注意>

起床後に手を洗うまでの間は、次のようなことを守ってください。

- 目や口をさわらないでください。(さわった場合は、水でゆすぐなどして洗い流してください。異常を感じる場合は医師または薬剤師に相談してください。)
- 顔や髪の毛などの体に触れないでください。
- 歯磨き、シャワー、コンタクトレンズの扱いなどは避けてください。
- 必要以上に他の人や物に触れないでください。



● その他の注意

- このお薬を使用中は自動車の運転など危険を伴う機械の操作にご注意ください。
- 高温下での作業や、激しい運動、夏場などは体温の上昇にご注意ください。発汗を抑えるため、外の気温が上昇した際に、急に体温が上がるおそれがあります。



アポハイド[®]ローション20%の主な副作用

- 次のような症状が現れた場合、使用をやめてすぐにお薬を処方された医師または薬剤師に連絡してください。

- ・ 塗ったところに炎症やかゆみ、湿疹などの皮膚の異常がみられる
- ・ 口が渴く
- ・ 何日も便秘が続き、お腹が張って苦しく感じる
- ・ 尿が出にくい、出ない

など

次に当てはまる方は、医師または薬剤師にお伝えください。

- ・ 年齢が12歳未満の方
- ・ 妊娠中または授乳中の方
- ・ 手に傷や湿疹、炎症がみられる方
- ・ 緑内障がある方
- ・ 前立腺肥大症など排尿に問題のある方
- ・ 不整脈のある方
- ・ 脳血管の障害がある方、認知症や認知機能に障害のある方
- ・ パーキンソン症状のある方
- ・ 腎機能や肝機能の低下がみられる方
- ・ 次の疾患と診断されている方
甲状腺機能亢進症 うっ血性心不全 潰瘍性大腸炎
- ・ 手掌以外の部位の多汗症治療を現在行っている方



アポハイド[®]ローション20%の保管方法

- 子どもの手や目の届かないところに保管してください。
- このお薬は保管袋に入れて保管してください。
- このお薬は可燃性の成分を含むため、火気を避けて保管してください。
- 高温にならない場所で保管してください。

アポハイド[®]ローション20%の捨て方

- このお薬が残っている場合は、火気を避けてお薬を紙や布などに吸収させて、可燃ごみとして捨ててください。
- このお薬のボトルはプラスチック製です。各自治体の分別ルールに従って捨ててください。

